

令和8年度山口県産業戦略本部第1回全体会合会議録

日時：令和8年9月4日(金) 10:00～11:30

形式：Web会議

<開会>

○村岡本部長（知事）

令和8年度第1回山口県産業戦略本部会議の全体会合の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

皆様方、本日は大変ご多用中にもかかわらず、こうしてご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、本年度、新たな委員としてご参画をいただきました東委員、佐藤委員におかれましては、ご就任を快くお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、県では、経済の持続的な成長発展に向けまして、やまぐち産業イノベーション戦略、そしてやまぐち産業脱炭素化戦略に基づき、本県の強みをしっかりと生かした産業力の強化に向けた取組を積極的に展開しているところです。

こうした中で、GX戦略地域の認定を勝ち取るため、関係の皆様方とともに総力を挙げて取り組んでおり、夏ごろとされている最終選定におきまして、本県が認定されることを今か今かと心待ちにしているところでございます。

私は今後の県づくりの推進方向として、成長が安心を生み、その安心がさらなる成長を後押ししていく、そうした成長と安心の好循環を創出することで、安心で希望と活力に満ちた山口県の実現を目指すこととしております。

その原動力となる産業力の強化に、引き続き集中的・重点的に取り組んでいく必要があると考えております。

これまでの成長を基盤に、本県の強みを最大限に生かしながら、国際情勢や技術革新などの社会経済状況の変化に、的確に、かつしなやかに対応することで、本県の稼ぐチカラを飛躍的に伸ばしていかなければなりません。

このため、本日は、その指針となる新たな産業戦略の骨子案をお示しして、ご議論いただくこととしております。

委員の皆様には、本県産業をリードするそれぞれのお立場から、本県産業力の強化に向けた取組を、さらに力強く前に進めていく。そのための課題認識や今後の取組の方向性などについて、ご意見や提言を頂戴できればと考えております。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

<意見交換>

○東委員（NTT西日本(株)）

NTT西日本山口支店の東と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まずはじめに、この会議の委員のお役目を頂戴しまして、ありがとうございます。私も全力で取り組んでまいりたいと思いますので、どうぞこれからよろしくをお願いいたします。

私からは情報通信業界の立場として、主にデジタルとDXに関する部分で大きく2点コメントをさせていただければと思います。

まず1点目がY-BASEの取組状況についてです。やまぐち産業イノベーション戦略第3次改定版骨子案において、地域産業AX/DXやAXが新たなキーワードとして示されていることに、注目しております。

Y-BASEにおいても、昨年度から本格的に開始した生成AIに関するコンサルティングは、2023年度には全相談の約3%であったものが、2025年度には約29%、2026年度においても4月から7月時点で約26%を占めるなど、高い水準で推移しておりまして、県内企業や自治体における関心と活用ニーズの高まりを実感しております。

こうした現場でのニーズの高まりを踏まえると、AXを戦略の重要な方向性として位置付けられたことは、地域産業の将来を見据えた重要な視点であると考えております。

生成AIをはじめとするAI技術は急速に進展しておりまして、人手不足への対応や生産性向上のみならず、新たなサービスや付加価値の創出、さらにはビジネスモデルそのものの変革を実現する重要な手段となりつつあります。

このような中、山口県では既に県と市町が条例などの行政文書をRAGとして共同で利用できるデータ基盤の整備を行う全国でも先進的な取組を進めておりまして、生成AIの活用とデジタル人材不足の両方の課題解決に資する取組を行っております。

今後は、DXにおけるデジタル化に加え、AIを活用して業務や経営そのものを変革するAXの視点が、地域産業の競争力強化に向けてますます重要になるものとして考えております。

とりわけ、県内企業や自治体、さらには県民の皆さまが、生成AIの恩恵を広く享受できる環境を整備し、地域全体で安心安全に使えるAX活用基盤を推進していくことは、生産性の向上ですとか、新たな付加価値の創出につながり、山口県が目指す、稼ぐチカラの強化を支える重要な基盤になるものと期待しております。

一方で、NTTグループにおきまして、次世代情報通信基盤であるIOWNとAIを融合した、AIWONというものを、今、実現に向けて取組を進めておりまして、AIをより身近で高度に活用できる社会基盤づくりを推進しております。

今後は、こうした技術の進展も踏まえ、県内企業や自治体においても、AIエー

ジェント等の活用が広がり、業務変革や意思決定の高度化が一層進むものとして考えております。

次に2点目です。山口県内でのDXやセキュリティの高度人材の確保と育成について申し上げます。

先ほどの地域産業のAXやDXを推進する上で、セキュリティ対策は極めて重要な要素であるというふうに考えております。

AIやデータ活用が進展するほど、サイバーセキュリティの重要性は一層高まってまいります。

一方で、セキュリティ人材の高度専門人材は、全国的に不足しておりまして、県内企業や自治体においてもその確保や育成は大きな課題となっております。

サプライチェーン全体でセキュリティ対策とBCPを連動させることが急務になり、SOCに求められる対応も、高度化、多様化している中で、単独の企業や自治体のみでの人材育成や体制整備を行うことは容易ではありません。

そのため、地域全体で実践的な経験を積みながら、人材を育成できる仕組みづくりが重要になるというふうに考えております。

今のY-BASEの取組を発展させる形で、産官学から専門人材や育成対象者を集めた山口県の地域連携型SOCを構築し、県内企業や自治体の相談対応や実案件への対応を通じて人材育成を行う仕組みが実現できれば、大変意義のある取組になるのではないかと考えております。

こうした取組によって、学生は県内企業との接点を持ち、県内企業の人材はより高度な実践的なスキルを習得できるほか、全国レベルの専門人材に対しても山口県の魅力や可能性を発信することができます。

セキュリティ人材はキャリアアップを求めて流動的に活動する傾向がありますが、産官学が連携して高度な専門ポジションを地域内に創出することで、県内人材の育成だけでなく、県外から県内への還流や定着にもつながるものとして期待しております。

我々NTT西日本としましても、専門人材の協力や山口支店からの育成対象人材の派遣などを通じて、山口県のセキュリティ分野の高度専門人材育成に共に取り組んでいければと思います。

最後になりますけれども。やまぐち産業イノベーション戦略第3次改定版が、県内企業や自治体のAXやDXをさらに加速させ、山口県全体の持続的な成長と稼ぐチカラの向上につながることを期待するとともに、当社としても関係機関の皆様と連携しながら、その実現に貢献してまいりたいというふうに考えております。以上です。よろしくお願いいたします。

○村岡本部長（知事）

どうもありがとうございました。

東委員さんには特にY-BASEの関係で大変にお世話になっておりまして、ありがとうございます。

お話いただきましたように、AXですね。AIによるトランスフォーメーションがこれから大きく力を持つてくると思いますが、相談件数も3割程度、生成AI関係が増えているということで、そうした変化を我々も感じているところです。

特に中小企業の相談も多いと思うんですが、やはり中小企業も特に人手不足も深刻なわけで、一方で、色々と生成AIの話を最近お聞きすると、特に中小企業ほど組織がシンプルですので、変えやすい、大企業に比べると大きく変革がしやすいということで、生成AIを導入するのに、むしろ率先して中小企業の方からやるべきじゃないかというお話もよくお聞きします。

そうしたところで課題の解決につながる部分が、非常に可能性が開けてると思っていますので、ぜひ引き続きお力お貸しいただければと思っています。

それからもう一つは、セキュリティの関係も非常に高度化してきておりますので、我々も常に心配をしているんですが、クロード・ミュトスとか、本当に生成AIでセキュリティの穴をついてくるようなものがどんどん高度化しておりますので、対応もよりレベルアップしていかなければいけないと思います。

その人材も、大変重要でありますので、その育成とそれから定着に向けて、おっしゃる通り、産学官連携してやっていく必要があると思っています。

そうした体制づくりに向けましても、また引き続きお力を貸していただければと思いますので、どうぞこれからもよろしくお願いします。ありがとうございました。

続きまして、奥野委員さん、お願いします。

○奥野委員（(株)トクヤマ）

株式会社トクヤマの奥野でございます。よろしくお願いします。

本日は各産業戦略の進捗状況のご報告、それから「やまぐちGX推進戦略」の策定案をはじめ、県の取組に関するご説明など、ありがとうございました。

まず進捗報告に関しましてですが、プロジェクトごとに設定された目標に対しまして、いずれも順調に進捗しているということが確認できました。

弊社を含みますコンビナート企業にとっても関連の深いテーマでございます港湾整備については、国へも強力な後押しをいただいております、徳山下松港の整備が進んでおります。

現在、新たなバースの必要性、それに伴う早期事業化につきましても、県・市とも一緒に要望活動を行っておりますので、こちらについても引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

また、周南地区の懸念材料の一つであります、冬場の工業用水の渇水対策につきましては、すでに実施をしていただいております水系を超えた広域な供給に加えまして、菅野ダムにおけるダム運用の高度化による効果も期待をしております。

今後、さらにAI等の先端技術も活用して、様々な取組を進めていただきまして、その検証結果についても共有いただければと思っております。

また、半導体・蓄電池関連産業の集積・強化をはじめとする県の産業創出や成長に向けた様々なご支援、さらには県全体の課題でもあります労働人口減少に対しては、今もありましたDXの推進や人材確保・育成に関する様々な取組なども着実に効果を上げていただいております、こうしたソフト面での取組と、先ほど述べましたインフラ整備強化、双方で強力にご支援をいただいておりますことに改めまして感謝を申し上げます。

これらの取組につきましては、「やまぐち産業イノベーション戦略」及び「やまぐち産業脱炭素化戦略」について、必要な改良を加えながら引き継がれていくと理解をいたしましたので、引き続きよろしく願いを申し上げます。

また、そういった中で、弊社のトピックスといたしましては、弊社も参画をさせていただいております、内閣府の地方大学・地域産業創生交付金事業ですとか、環境省の委託事業であります、副生・再エネ水素によるサプライチェーン実証事業も採択をされております、弊社といたしましても、県産業と地域の発展に貢献できるよう頑張っておりますので、ご指導ご支援の程よろしくお願いをいたします。

次に、本日ご説明をいただきましたGX戦略に関して、少しコメントを述べさせていただきます。

まずは、何よりもGX戦略地域への認定、そして国家戦略特区の指定に向けて、村岡知事の強力なリーダーシップのもと、非常に短期間ではありましたが、県内各地域、企業や関係機関との調整、あるいは国との連携調整などに本当にご尽力をいただきましてGX戦略地域制度への申請を行い、有望地域に選定をされたことに感謝と敬意を表します。ありがとうございました。1日も早く認定されることを心待ちにしております。

その中で、県が目指す姿として、GXコンビナートへの転換を果たしまして、GHG排出量を低減させていくこと、それと県の特徴であります素材型の化学産業を活かして、GX産業の成長と集積により経済成長していく、この両立を目指していくという方針が明確に示されたことは、私たちコンビナート企業にとりましても、これから目指していく方向性が大変分かりやすくなりました。

そして、それらの個々の取組については、既に進行していますイノベーション戦略や産業脱炭素化戦略とも整合しているということの理解が出来ました。

今後に向けて一つ、お願いというか要望といたしましては、本日の説明でも挙

げられておりました複数ある戦略等の混線回避について、より分かりやすい形で整理をお願いしたいと思います。

もう少し触れますと、例えば今後、GX戦略地域に関する全体会合ですとか、地域ごとの活動があると思うんですけども、そのメッシュをどうしていくのか。コンビナート連携会議の位置づけや、この関わり方をどうするのかといったことについては、これから具体的にできると整理が必要になるのではないかと考えているところでございます。

さらに、国からは地域未来戦略が発表されておりますけれども、この地域未来戦略におけるGX戦略地域の位置づけ、それから山口県で各種戦略が出ておりますが、この位置づけについても、実際はそれぞれの戦略が策定された時系列が異なっていることもありまして、なかなか理解が難しい状況かなというふうに感じております。

これからGX戦略制度をはじめ、様々な形で国や県からのご支援をいただくためにも、こういった国や関係機関との連携強化、それから関係企業や機関への参画の働きかけ、さらには情報共有など、引き続き強力なリーダーシップの発揮をお願いしたいと思っております。

弊社も県産業の発展と地域の活性化に貢献できますよう努力して参りますので、引き続きのご指導、ご支援をよろしくお願いを申し上げます。ありがとうございました。

○村岡本部長（知事）

奥野委員、どうもありがとうございました。

お話しいただきました、港湾の整備ですね。大変課題があるところでして、滞船等の状況が深刻だと、せつかくの基盤が生かせない、ポテンシャルを伸ばしていけませんので、その必要性は重々認識をしております。

ぜひ、また共に国の働きかけ、必要性や、切迫度をしっかりと訴えて、早期の事業の進展に向けて頑張っていきたいと思っております。

それから、工業用水の方も、いろいろ課題がありまして、ご迷惑をおかけしておりますけれども、様々な工夫もしながら運用を、とにかく無駄ないように最適にしていきたいと思っておりますし、最新のAIですとかを使いながらやっていく、色々な研究もしていかなければいけないと思っております。

それから半導体の関係では、内閣府の事業はハードルが高かったんですけども、大変お力を貸していただき、事業採択ができて、本当に嬉しく思っています。

大学とも一緒になってやっていかなければいけませんし、これからの色々な分野ありますけれども、例えば窒化アルミニウムですね、御社が非常に世界トップシェアを持っていらっしゃる、さらに高度化をしていくということに向けて、しっかり

と伸ばしていければと思います。

そういった中で今、GX戦略地域が、まだ認定がいつなかわからないですけど、近いうちと言われておりますけれども、ぜひ実現をしていきたい、獲得をしていきたいと思っています。

おっしゃったように、色々な計画が、このGX戦略地域もそうですし、国の方の地域未来戦略ですとか、成長に向けた様々な計画なり、そうしたものが並行して進んでいるところがありますけれども、よく整合を取りながら、もちろん目標が同じ方向に向かっていかなければいけませんし、関係者の混乱がないように、スムーズにいくようにしていかなければいけないと思います。

またこれもGX戦略地域の指定がどうなるかということも踏まえて、また新しい展開も出てきますので、そうした中でしっかりと連携がうまくできるような形で進めていきたいと思っておりますので、引き続きご理解とご指導賜りますようお願いいたします。ありがとうございました。

続きまして、児島委員さん、お願いします。

○児島委員（東ソー(株)）

東ソー南陽事業所長の児島でございます。

一部これまでのご意見と重複する部分もございますが、意見を述べさせていただきます。

まずはやまぐち産業イノベーション戦略第3次改定版の骨子案についてですが、重点成長分野として医療・ヘルスケア関係産業の統合、バイオ関連産業の再編によるフードテック関連産業の新規追加により、区分がより分かりやすくなったと思っています。

この中で、重点成長分野の直接的取組について、弊社は総合化学会社ということでありますので、この中でも瀬戸内産業競争力・生産性強化に係る港湾の機能強化、工業用水の安定供給体制の強化、幹線道路網の整備、コンビナート連携が非常に重要と考えていますので、こちらについては、引き続き、よろしくお願いいたします。

次に、やまぐちGX推進戦略の骨子案については、多様な選択肢と現実的・段階的な移行をキーワードにしまして、脱炭素、エネルギー安定供給と経済成長の同時実現を目指し、GXを推進するということで、非常に現状に即したバランスの良い考え方だと思っています。

また今回、脱炭素に関連する現行の計画体制を、やまぐちGX推進戦略に統合するということで、今後の取組も、よりまとまりのあるものになると非常に期待しています。

この中で、重点分野の積極展開については、コンビナート関連の多排出産業へ

の対応と、これが弊社の課題でもあり、今後周南コンビナートにおけるLNGの供給拠点や共同発電など、色々な検討が今後必要となると思われますので、ご支援ご協力をいただければと思っています。

世界で勝てるGX産業拠点の形成と、県内全域へのGXの波及によるGX先進県やまぐちの創出に向け、東ソーとしても貢献できればと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。簡単ですが、以上でございます。

○村岡本部長（知事）

ありがとうございます。児島委員さんにも大変GXの推進にお力を貸していただいております、ありがとうございます。

周南地域はじめ、県全体のGXをキーにした成長をぜひしっかりと進めていきたいので、どうか引き続きお力を貸していただきたいと思います。

様々それに向けましても、インフラの整備ですとか、そうしたものが重要であることをよく承知をしておりますし、またコンビナート内の、あるいはコンビナート間の連携というところをより一層密にしていかなければいけないと思っております。

また色々のご意見をお聞かせいただきながら、しっかりと域内や、コンビナート間の連携ができるように取組をさらに進めていきたいと思っています。

また脱炭素の動きも、今後どういうふうに向かっていくのかというのは、なかなか見通させないところがありますから、色々なことに対して対応できるようにしていかなければいけないところは、本当に難しいところだと思います。

LNGのお話もありましたけれども、多様な部分ですね、いずれも対応できるようにするというのは、投資が逆に言うと非常に多くなってくるということも一方で起こりうるわけですが、一本に絞ってやっていくというのは難しいということも、他方で事情としてあります。その状況を見ながら、進めていかなければいけないというところはあろうかと思います。

ぜひそういったところも、これからも、引き続き、よく状況やそれぞれの企業のお考えをよくお聞かせいただきながら、一つの方向に向かっていけるように進めていきたいと思っておりますので、どうか引き続き、お力を貸していただきますように、よろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。

それでは続きまして、佐藤委員さんお願いします。

○佐藤委員（山口大学）

山口大学の学術研究担当理事・副学長の佐藤です。この春から委員に就任しましたので、この会も初めてです。どうぞよろしくお願いいたします。

まずはじめに、地方大学・地域産業創生交付金では、山口県様並びに株式会社トクヤマ様、東ソー様のご協力のもとで採択が叶い、今後、半導体に関しては、

事業を活用しながら、さらに発展させていきたいと思っております。

ただ、この交付金の事業は、10年間です。最初の5年の支援をいただいておりますけども、その後の展開枠に向かって、スタートダッシュをしながら、しっかりとこの産学官が連携して、次の5年間も採択に向けて動いていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

今日ご発表いただいた内容に関してなんですけども、非常にまとまっており、初めて参加して、素晴らしいなと思いました。

また、これまでの実績もしっかりとほぼほぼ4つ星がつく内容となっており、しっかりと皆さんが努力されているということがわかりました。

一点、最初にご報告された産業イノベーション戦略の方で、区分としては領域が分けられ、その後、重点成長分野というものが作られています。こちらは当然国が作っている17分野に合致しながら考えられていると思うんですけども、どの分野がどこに関連しているかというのが一目でわかると、非常にありがたいと思います。SDGsでも、一つのものに対していくつもぶらさがっていますから、ああいう形で構いませんので、もし次回、参考資料を作られるときは、そのあたりも意識して作っていただけるとありがたいかなと思っています。

また、全体を見回して、山口大学が山口県と協力してやれることは何かと思いますと、やはり最初に知事がおっしゃった稼ぐチカラのところでは。

この稼ぐチカラは結局それを使うことによって若者定着につながるんだろうと思っております。

今、山口大学も18歳人口、大学進学時の人口、若者が減ることを何とかして回避しようと、令和10年度からの第5期中期計画、中期目標というものを作っております。

その中で、この県が稼ぐチカラをつけていただく、そこに私たちが協力することで、山口大学の若者がこちらに定着してもらう、また、県外からも若者が来てもらうということをやっていきたいと考えています。

それが一つで、やはり人材育成の点では、若者、学部出身もあるんですけども、やはりリスクリングの点があると思います。

大学にはかなりスペシャリストもいますので、こういった面のリスクリングの人材というか、リスクリングをやる必要があるのかということを、県、並びに企業の方々とディスカッションして行きたいと思っております。

と言いますのが、先日発表された国の概算要求の中で、文部科学省並びに経済産業省から、リスクリングというキーワードが多々出てきております。

リスクリングを重点的に支援するということは、文科省はもう明確にしていますので、そのリスクリングをどうやってやるか、大学の勝手だけではなくて、必要な人材のリスクリングをする。

そういったところのディスカッションする機会が少ないのかなと思いますので、ぜひともそのあたりの話し合いを、ご意見ご意向を伺えればというふうに思っております。

そして2つ目が、研究の力を私たちは提供できます。今回の重点分野でも、半導体並びにもう一つ、医療分野、ヘルスケア分野が入っております。

やはり小串にある大学病院、あそこには非常に素晴らしい研究が進んでいますので、その力をさらに展開していったって、産業を興していくということをつなげていきたいと思っております。

また、先ほど言いました内閣府の地方大学・地域産業創生交付金にプラスして、今回、私たちはEPOCH事業という文科省の事業採択を受けております。

これは、山口大学が持つ機器類を、学内のみならず県内の様々な企業に展開して使っていただいて、そこで産業を活性化していこうという事業になっております。

当然、内閣府事業でも産業技術センターに各種機器を置かせていただいて、そこを使ってやっていきます。

ただ、このEPOCH事業では、より広い幅広い機器類を購入できますので、大手企業様のみならず、中小企業の方々にも使えるようなシステムを組みたいと思っています。

その際にやはり県が持っているネットワークそれが非常に重要になってきますので、その点についても一緒に考えながら、県内のすべての企業が、私たち大学並びに県の持っている機器を有効に活用して、新たな産業が生まれてくればということを考えております。

少々長くなりましたけれども、非常にこの取組に期待しておりますので、全力を挙げてご協力させていただきますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○村岡本部長（知事）

どうもありがとうございます。

先般の内閣府の事業では、大学に特に頑張って、色々な組み立てをしていただきまして、新しい人材のセンターも立ち上げて、これから半導体関係中心に人材育成を担っていただけること、本当に心強く思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

お話のありました、政府の示している成長17分野との関係については、少し整理をしてお示しできるように、考えてみたいと思います。

それから、特に大学の方では、お話のあった人材育成がとても我々これから期待をしているところです。

もちろん大学、学部・院卒の方々の人材もそうなんですけれども、おっしゃったリスキリングの部分ですね。

どんどんと技術も変わっていきますし、山口県で働く方々が、常に自分をレベルアップしていけるような環境というものは、企業の方にも、また本人にとっても求められているところでもありますので、ぜひそうしたものを国の方も大きくこの事業をもっと組み立てていこうというような動きもある中でもありますので、しっかりと山口大学の中でもよく対応できるような形でこれから行っていただけるとありがたいと思います。

そうした場合にどういった人材が本当に企業としては必要なのかということをよくコミュニケーションをとることは大事だと思っていますので、これまでも一定されていると思いますが、どのような形が我々としてもサポートできるのかということとは考えていきたいというふうに思います。

最後にお話のありましたEPOCH事業は、大学で、設備とか機器とかを広く、他の企業にも利用いただけるというお話をお伺いしましたけど、大変助かる話だと思います。

我々、産技センターの方でも非常にニーズが高いものを、購入したり供給したりしながら、それぞれの企業の開発ですとか研究に生かされているところでありまして、大学の方が優れた設備をたくさんお持ちでいらっしゃると思いますので、ぜひそうしたところも力を貸してもらいながら、本県の産業の成長の推進にさらにお力を貸していただければと思いますので、これからもよろしくお願いします。どうもありがとうございました。

それでは続きまして、高瀬委員さんお願いします。

○高瀬委員（UBE（株））

本日は分かりやすいご説明、どうもありがとうございました。それでは簡単に意見を述べさせていただきます。

まず、産業イノベーション戦略の進捗状況について、複数の委員の皆様からのご意見ありましたけども、全体指標それからプロジェクト指標、着実に成果を上げられていることに感謝を申し上げます。どうもありがとうございます。

特に我々地元企業としては、重要なインフラであります宇部港、それから小野田港、脱炭素化推進計画の策定について、心より感謝申し上げます。実行過程においても、引き続きお力添えをいただければ大変ありがたく思います。

それから、産業イノベーション戦略第3次改定版の骨子案についてですけども、重点成長分野、それから産業戦略プロジェクトの一部改定、組み替えについては、趣旨を理解いたしました。

成長分野の育成のためには、それを支えるインフラ、人材などのリソースが大

変重要になると思われます。

産業戦略プロジェクトの各項目、非常に重要なんですけども、特に人口減少下の状況において、人材の確保・育成、AX/DXの推進、コンビナート連携による効率化や合理化、これらが企業共通の重要課題ではないかと感じております。

山口県様のご支援、リーダーシップによって、さらに国の支援を引き出すような産学公金が連携した活動に大変期待しているところでございます。

続きまして産業脱炭素化戦略についてです。

ご説明いただきました通り、様々な施策が進展していると理解しております。

特に弊社は化学会社でありますけれども、コンビナート分野では、GX戦略地域の有望地域の選定、宇部港・小野田港の港湾脱炭素化推進計画の策定など、大きな前進があったと認識しております。

脱炭素それからエネルギー安定供給、さらに経済成長、これらの両立という取組は、企業にとって極めて重要で、かつ非常に難しい課題でありまして、個社の努力ではとても超えることができない、極めて困難なハードルであるというふうに認識しております。

そういう意味でも、GX戦略地域への取組が県内企業の競争力向上につながるGX戦略になるように、みんなで協力して進める必要があるというふうに考えております。

弊社としても山口県様、それから地域の関係者の皆様と連携しながら取り組んでいきたいと考えております。

最後になりますけども、やまぐちGX推進戦略の骨子案についてですけども、方向性、内容について、理解できるものと感じて聞かせていただきました。

弊社としても宇部・山陽小野田地域における2050年カーボンニュートラルコンビナートの実現に向けた議論・検討に参加してまいりましたけれども、地域全体で連携してGX戦略を推進することの重要性、これを強く感じております。

GXの推進については、時間軸を意識した取組が重要であると感じております。

山口県の地域全体としての強み、方向性と各企業様の施策、それぞれありますので、これを共有しつつ、エネルギー転換などは少し検討から実行まで時間のかかる取組と考えておりますし、一方で既存インフラを活用するなどの短期的に成果を見込める取組、これらをどのように関連づけて関係者が相互にメリットを感じることができるスキームにできるのか、このあたりがGX戦略地域に指定されて、今後検討を進めていく上では、非常に悩ましいですし、重要な問題であるというふうに思っております。

これらの議論がしっかりできるよう、どういう単位で議論していくのがいいのか、その点も含めて、これからいろいろご相談させていただければと思います。

弊社としても全力を尽くして、協力させていただきたいと思っておりますので、

引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○村岡本部長（知事）

どうもありがとうございました。宇部と小野田の港でのカーボンニュートラルポートの関係で計画づくりに大変お力を貸していただきまして、ありがとうございます。しっかりと進めていかなければいけないところだと思います。

おっしゃられた人材の確保育成、それからAX/DX、コンビナート同士の連携、これによる合理化とか効率化は、とても重要な視点だと思っております。

これらを全てきちんとやっていかなければ、これから大変な時代を乗り切っていけないだろうというふうに思っておりますので、我々も努力をしていきますので、色々な方法ですとか方向性等についてご意見をいただければと思います。

それからGX戦略地域の関係は、本当にUBEさんはじめ宇部のエリアでも、大変な力を入れていただきまして、ありがとうございます。

有望地域に選ばれて、あとは最終に必ず選ばれたいと、そういった段階でありますけれども、宇部の方でもアンモニアの新たな研究ですとか、あるいは事業を行うための用地の拡大ですとか、様々プロジェクトはありますけれども、どれも大事なものだと思っておりますので、ぜひ指定を受けて、しっかりとこれが前に進められればと思っております。

それから、最後におっしゃった点がとても大事だと思っております、目指すべき方向性、大きくカーボンニュートラルですとか、GXの目指す方向性というのは、だいたい一致していると思うんですけれども、そうした中でどのような時間軸でどう進めていくのかというところがとても大事だと思います。

短期のものと、それから中長期のものとありますし、それぞれ企業の方での経営ですとか、戦略もあると思っておりますので、そこがうまくマッチするような形でやっていかなければ、うまく前に進んでいけないと思っています。

これは、選定を受けて、個別のプロジェクトを進めていく中で、そうした形の協議や調整をしっかりと行いながら、しっかりと前に進めていくというところを、どのように形作れるのかというところが大事だと思いますので、皆様方のご意見をお聞きしながら、ぜひしっかりと事業が前に進むような形で、力、思いを一つにして前に進められるよう目指していきたいと思っておりますので、進展に応じてご協力いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

それでは続きまして、藤田委員さん、お願いします。

○藤田委員（フジミツ(株)）

フジミツの藤田です。よろしくお願いいたします。

多分、私が、今日、出席及び欠席の皆さんも含めて、この産業戦略本部の一番

の古株、第1回目から出ている唯一のメンバーだと思います。

確か山本知事時代に始まって、すぐに村岡知事が引き継がれて、今の形になっていると思いますけど、この産業戦略本部は、山口県に本社を置く企業だけでなく、経済規模が大きい事業所の皆さんを集めることによって、県内経済に大きい影響を与えるという、最初の仕組みが、うまく回っていると思います。

それと、個別具体的な要望を受けて、それに県が応えていく。これが十数年間、私も参加させていただいて、一番印象的なのは、最初の頃は、工業用水の問題が出ていまして、山口県は工業用水が少なかった。それで増やしてくださいという要望が複数の方から出て、それを受けて、今は逆に、この工業用水が豊富にあるというのが山口県の強みになっています。

こういった具体的な成果を出す入り口になっている素晴らしい会議と、その仕組みの作り方も素晴らしいと思います。

新規の取組についても、今回、イノベ戦略と、それからGXの戦略が出ています。

我々も採択をしていただいた水産インフラ輸出、ODA案件として、この会議で取り上げていただいて、実証実験が獲得でき、ベトナムのフーコック島に、レムアイスの製造装置を出すことができたということで、この新規の取組についても、ここで具体的な話を進めていただき、その成果が出ているなということで、他県のこういう会議がどうなっているかは私も知らないんですけど、やはり、県内に本社を置く置かないにかかわらず、事業規模が大きいところを集める、そして具体的な要望に対して県が応えていくような、素晴らしい仕組みが、これまでの成果を生んできたのではないかと思います。

私はどちらかというと一次産業の代表の立場も含めて出てきているんですけど、一次産業の面で言うと、10年前ぐらいは、国全体の一次産業政策が地域ブランド政策、例えば6次産業化とか、地産・地消とか、農商工連携とか、どちらかというとブランド化政策の内向きな、内容が多かったんですけど、今の状況を考えていくと、一次産業は、国の政策を待つのではなく、地方から声を上げていく、特に今、山口県は人口減少、これが否めない状況にありますので、私は一次産業が、GXの促進とか脱炭素とかやるにしても、やはり必要なのは経営体が減っている中で、規模の拡大と、国際展開、こうすることによって、この一次産業を成長させていくってというような具体的な軸を明確にして、そこに論点を置いて考えていくのではないかと思います、一つの課題です。

2つ目が、今までも、ブランド化政策の時には、例えば、新鮮やまぐちとか、株式会社山口県という政策が過去にありました。

ここで成果として挙げられるのは、入り口として、どれだけの認定マークを何社つけて、何品つけたというところになっているんですけど、大事なのは成果が金額でどれだけ出たっていうのが、実際の経済効果を成果として、成否を考えて

いくというような評価方法が、今後は必要じゃないかと思います。

それから2点目で、私の入っている水産インフラ輸出の取組。ベトナムのフーコックは、来年、2027年のAPECの会場に選ばれています。それで、このフーコックが存在するアンザン省と提携しているのは日本で山口県だけですから、この具体的な、今のアドバンテージを生かした、水産の振興と、観光の振興という相手方のテーマに対して、山口県も積極的に関与することによって、世界進出というような展開ができる。一部ヒラメの養殖事業で、民間ベースで、次のプロジェクトが今進行しつつありますので、引き続きご協力をお願いできればというふうに思います。

それから、もう一つ、パンガシウスという魚が今、世界的に注目され始めています。

これは何かというと、メコンデルタに生息するナマズの一種なんですけど、生産量が180万トンぐらいあって、大半、9割方が中国に、フライとか中華料理の原料として売られています。

それで、日本も一部イオンさんのPBでパンガシウスというフライが、白身フライで売っています。

なんで注目されているかというと、今、日本の海の資源の中で一番資源量が多いのが、ベーリング海に生息するスケソウダラ、我々の明太の原料になるスケソウダラなんですけど、このスケソウダラに代替できる川魚の養殖原料として、注目されはじめています。

私も現地に行ってきたんですけど、充分代替できる可能性はあるけど、まだ課題がたくさんあると思っています。

中国にも、レンギョやソウギョという川魚があるんですけど、これらの中国の魚に比べて非常に川魚特有の臭みが少ないですね。

それがやっぱり非常に大きな可能性として、このパンガシウスを使って、海の魚を一切使わずにカニカマができるんです。今と全く同じような品質のカニカマができる。

そういう可能性を秘めた魚の産地が、たまたまアンザン省に大半あって、そのアンザン省にもっと、例えば、すり身の技術であるとか、養殖の技術をテコ入れしてやれば、もっと価値のあるものになるんじゃないかと、今、ほんと直近になって、そういう話が出て感じてきました。

ここも、今度は、フーコックと違うアンザン省と山口県がつながることにより、山口県が技術的に介入して、事業の展開ができる、世界的にも、意義があるプロジェクト、先ほどのフードテックにもつながると思っていますので、ぜひ、こういった事業に対しても、ご理解、研究開発をお願いしたいと思っています。

○村岡本部長（知事）

どうもありがとうございます。藤田委員には、第1回からご出席いただきまして、色々といつも貴重なご意見いただきまして、誠にありがとうございます。

今日も色々な新しい情報も聞かせていただきまして、我々もしっかり研究して一緒に進めればと感じた次第でございます。

水産インフラの関係も、非常におかげさまで前に進めていただきまして、事業がレムアイスの供給ですとか、その先にも、これからまた展開できればなというふうに、大変いい形で進めていただきまして、感謝をしております。

それから、やっぱり農林水産業の関係が非常に、担い手不足の関係もあり、深刻な状況がありますので、これはこれでしっかりと力を入れてやっていかなければいけないということで、この産業戦略だけじゃなく、県全体の総合計画の中でも、この農林水産業をいかに育成強化していくかというところを大きな柱にして取り組む、新しい5年間の計画を作ろうとしている、その作業中なんですけども、そうした中でも、しっかりと位置づけをして、進めていきたいと思っています。

おっしゃる通り、経営体の、組織の規模の拡大ですとか、効率化、大規模化ということをやっていると、中々これから先、特に農業の関係で言いますと、高齢化率が非常に高いというところがありまして、担い手不足がこれからさらに深刻になっていきますので、大規模化と、あと若い人たちに入ってもらおうということを、いかに工夫してやっていくかということをやりたいと思います。

また、海外展開も、おかげさまでどんどんとフジミツさんにも海外展開もお力添えいただいています。様々な成果が上がっていますけれども、おっしゃったように、最終的な成果ということでは、輸出の金額ですとか、そうしたところをしっかりと見ていかなければいけないと思います。

品目数にしては、もう何十倍にもこの数年間で増えてきておりますので、いいんですけれども、金額的にもしっかりと拡大していくように、ぜひ取り組んでいきたいと思っています。

また、先ほどお話のありました、ヒラメの養殖とか、また新しいことも今動きがあるということをお話いただきました。

それから、パンガシウスという、初めて聞きましたが、そういった魚があって、代替する、非常にポテンシャルが高いといえますか、可能性が非常にあるという話でしたので、またその辺の話もよく聞かせていただきながら、こういったことで、県の、これもちろん日本全体の食料の問題もありますし、また県の発展にもどうつながられるのかということ、また考えて、一緒に取組ができればなと思いますので、これからもぜひまた色々、ご教示いただいて、取組と一緒に進めていければと思います。よろしくお願いします。

ありがとうございました。そうしましたら続きまして、松浦委員さん、よろしく

お願いします。

○松浦委員（帝人(株)）

帝人株式会社の松浦でございます。よろしくお願いいたします。

まず、各戦略のご説明、ありがとうございました。ご説明、また資料にて、やまぐち産業イノベーション戦略およびやまぐち産業脱炭素化戦略、共に順調に進捗し、着実にその成果が現れていることを確認させていただきました。ありがとうございました。

本年度が計画期間の最終年度となるやまぐち産業イノベーション戦略第2次改定版につきましては、各プロジェクトの更なる発展を期待しております。

次に、やまぐち産業イノベーション戦略第3次改定版の骨子案についてですが、本日ご説明いただきました重点成長分野および取組の再編につきましては、国の成長戦略17分野、山口県の産業特性、強み、そして成長に向けたポテンシャルなどをベースとして、第2次改定版まで引き継がれてきた流れ、連続性を踏まえて設定いただいたもので異議はございません。

その中で、バイオ関連産業、バイオものづくりという、素材食品、ヘルスケア、燃料、エネルギー、これら多くの技術産業にまたがり、広範囲の枠組みであったものを、環境・エネルギー関連産業、医療・ヘルスケア関連産業、フードテック関連産業に再編されたことにより、目標と取組、そして成果の関係がより分かりやすく、具体的な行動へとつながりやすくなるものと思っております。

その中で、医療ヘルスケア産業に区分されるものと思われます、再生医療等製品のことについて触れさせていただけたらと思います。

本年3月、弊社岩国事業所において、再生医療CDMO事業の拠点となる岩国ファクトリーの本格化を開始いたしました。

今後、千葉県にあるもう一つの拠点とともに、再生医療CDMO事業の中核拠点として、CAR-T細胞療法製品やIPS細胞製品の生産などを行ってまいります。

山口県様にはこの度、弊社グループ会社が取り組む研究開発について、山口再生医療等実用化・産業化推進補助金の事業としてご採択いただき、ご支援いただきましたことを深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

そして、ここからはお願いをさせていただくことのお話をさせていただきますけれども、この再生医療CDMO事業において、高品質、高効率、低コストによるCDMOの競争力の向上、技術基盤の強化につきましては、企業において対応する範囲が大きいことと思いますが、顧客獲得、CDMOとして顧客から選ばれるためには、この技術力だけではなく、この技術力に加えて、それまでの実績、これが大きなポイントとなってきます。

基本的にはコツコツと積み上げることになるものとは思っておりますが、この

実績というハードルを少しでも下げることができる施策、ご支援の仕組み、例えば産官学での連携の場とか、関連する企業等で構成する協議会などでの共創による実績づくりなど、これらについてご検討お願いしたいと思うところでございます。

このことが案件の獲得増、また早期の事業安定化へとつなぐことができれば、関連企業の誘致も含めて、再生医療産業の集積へとつながることが期待できるのではないかと考えております。

次に、やまぐちGX推進戦略の骨子案についてです。

こちらにつきましても、GXの浸透により、これまで脱炭素のみが着眼点となっていた戦略から、脱炭素を軸にした構造改革、産業構造や社会システムの転換、経済成長を目指すために策定されたものであり、こちらも異議はございません。

令和7年度第1回山口県コンビナート連携会議でお示しいただきました、GX戦略地域の形成に向けた山口県の全体構想と、そのもとで実施するGX関連事業と、これに基づきまして、岩国・大竹地域での関連事業の実現に向けて、弊社としましても連携・貢献できることがあるかと存じておりますので、引き続きご指導ご支援の程、よろしくお願いいたします。以上でございます。ありがとうございました。

○村岡本部長（知事）

ありがとうございます。松浦委員さんにも、いつも岩国・大竹地域の企業の振興・発展にお力添えいただいております、誠にありがとうございます。

お話をいただきました。色々な重要なことがありましたけれども、バイオ関連のところですね、あとは関連して、再生医療の関係、岩国ファクトリーの本格稼働が進んでいるということでありまして、本当に心強く思っております。

県の補助も活用いただきましてですね、事業がぜひ大きく飛躍しますことを願っております。

この再生医療の分野というのも、これから本当に大きく成長する、間違いなく成長する分野でありますし、また御社をはじめ、県内には多くのこの分野についての力を持っている企業もあり、また大学の方でも、先ほどお話もありましたが、色々なポテンシャルといたしますか、研究の成果を持っておられるところでもありますので、これをうまく結びつけながら、これからの大きく伸びていく、また人類にもとても必要な再生医療の分野が、山口県が大きく伸びていければと思いますので、またこれからも我々はこの分野も力を入れて、様々な支援もしていければと思っていますので、引き続き、よろしくお願いしたいというふうに思います。

それから、その中で実績のハードルを下げる、色々なその工夫がもっとできないかという話があったと思います。

また具体的な話を聞かせてもらいまして、行政の方とタイアップしたものは、何かそうしたものに繋がることができれば、より事業を、大きく広げていく、早く、広げていけるところに繋がるといふ話だろうというふうに理解しましたけれども、どのようなことができるのかということ、よくまたお話を聞かせていただいて、我々もしっかり考えていきたいと思っております。

それからGXの関係も、岩国・大竹地域でも非常に様々な取組をご検討いただき、具体のプロジェクトに落とし込んでいただいたところでもあります。

ぜひ全県一体で一括して採択を受けて、3つのコンビナートエリアがそれぞれ伸ばしていく、また連携をしながら、より成長に向けて進めていけると、そうした形をぜひ作っていききたいと思っておりますので、まず採択を目指して、その後の事業展開、また引き続きお力添えを賜りますように、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

それでは続きまして、松田委員さん、お願いします。

○松田委員（マツダ(株)）

マツダ防府工場の松田でございます。本日は各内容のご説明、大変ありがとうございます。ございました。

やまぐち産業イノベーション戦略第2次改定版、着実な進捗をいただいているということ、改めて理解し、第3次改定版に向けて、さらに理解を深めたところでございます。

加えて、昨年度、弊社をはじめ、山口県の自動車関連産業に対しまして、様々なご支援、さらには三田尻中関港等のインフラ支援、ここも含めまして、多くのご支援いただきましたことに、改めて感謝を申し上げます。

昨年度、そういった様々な活動の中で、県内の各関連企業様と共に、様々な取組を行って、多くの成果を得ることができました。こちらも含めて感謝を申し上げます。

そうした活動を通じて感じておりますのは、これからの産業の発展には、一つの企業だけではなく、県内の様々な企業や産業がつながり、それぞれの強みを持ち寄っていくことが、ますます重要になるということを感じております。

本日はそうした、現場で感じておりますことを、自動車産業の立場から少しお話をさせていただきます。

まずこれから外せない大きなテーマの一つが、脱炭素への対応ということでございます。

脱炭素は自動車だけで完結するのではなく、エネルギー、素材、あるいは物流など、様々な産業が関わるテーマでございます。

その中で、自動車産業として、まず取り組んでいくべきことは、脱炭素を反映

した商品やサービスをお客様、お客様にお届けするということは当然でございますが、自動車産業の特徴は、生産販売の量が非常に大きいということでございます。

ゆえに、一つの技術や取組を多くの車両に展開していくということで、大きなCO2削減につなげることができます。

一方で、その脱炭素への取組をさらに広げるには、自動車メーカーだけではなく、県内関連企業の皆さんと一緒に取り組んでいくことが必要不可欠と考えています。

そうした意味でも、昨年度から試験的にスタートいただきました地場の中小自動車関連企業様への支援、こちらは大変意義のある取組ではないかと感じております。

こうした取組をさらに広げることで、県内企業様が持っている技術や人材をこれからの新しい産業やビジネスに繋げていければと思っております。

また、脱炭素への対応を考えますと、今ある産業を強くすることに加えて、そこから新しい成長領域を育てていくことも重要ではないかと感じております。

その中でも、今後さらに育てていくことが期待される領域の一つが、蓄電池の領域ではないかと考えています。

蓄電池は自動車の電動化だけでなく、エネルギー、産業機械、物流などの様々な分野への波及が期待できます。

脱炭素への対応は電動化だけでなく、さらには弊社が取組を強化しておりますバイオ燃料の実用化や、再生プラスチックなどの素材領域についても、今後さらに重要になってくると考えております。

こうした新しい領域を育てていくためには、自動車メーカーだけではなく、県内企業様、大学、金融機関、行政などが、それぞれの技術、知見、資金、ネットワークを持ち寄ることが重要ではないかと考えています。

脱炭素への対応を単なる環境対応で終わらせるのではなく、県内企業様の技術開発や新しいビジネスにつなげていく、そのためにも産学公金の連携をさらに強めて進めていくことが大切ではないかと感じております。

そして、こうした取組を進める上で、もう一つ大きな課題となるのが人材でございます。

人口減少や少子高齢化が進む中、人材の確保は個々の企業だけでは解決が難しくなっております。弊社も、今年度増産を迎えて多くの雇用を生もうとしておりましたが、非常に苦しんだ実績がございました。

そのため、人手不足への対応について、単に人を確保するだけではなく、省人化、自動化、デジタル技術の活用、そして人材育成などを地域全体で進めていく必要があると感じております。

こうした点を踏まえますと、今回お示しいただいております、やまぐち産業イノベーション戦略第3次改定版につきましても、私どもが現場で感じております課題や、これから取り組んでいきたいことと、方向を同じくするものと感じております。

これまで培ってきた産業基盤をさらに強くするとともに、将来の成長戦略を育てていくこと、そして県内の企業様や大学、金融機関、行政などがつながり、それぞれの強みを活かしていくこと、こうした取組を一つ一つ積み重ねることが、山口県の産業の持続的な発展につながっていくのではないかと感じております。

私ども自動車産業としても、その一員として、県の皆様としっかり連携しながら、山口県の産業の発展、稼ぐチカラの強化に少しでも貢献してまいりたいと考えております。以上でございます。

○村岡本部長（知事）

どうもありがとうございました。おっしゃられる通り、自動車産業は、マツダさんを中心に、山口県として非常に大きな力でありますし、また関連する企業、すそ野も非常に広いところでありますので、ここがぜひこれからも、しっかりと伸びていけるような形で我々も応援をしていきたいと思っております。

おっしゃった点が三つほどありました。いずれも重要な点だと思います。

脱炭素の関係ですね。非常に関連する企業はたくさん多いですし、また上流から下流まで、あらゆるところを脱炭素にしていかなければいけないというところだと思います。

県内の、特に関連する企業の方にも、我々も脱炭素の、特に中小企業の取組の支援ということ、県の施策としても、また金融機関とも連携をしながら、進めているところでありますので、先ほど少し触れられたところもありますが、さらに力入れて、ここは取り組んでいくことによって、トータルで、自動車産業で非常にCO2が抑えられているという形をぜひ目指していきたいと思っております。

それから蓄電池の関係も大変重要でありまして、まず御社の取組として、バッテリーパックの非常に大きな工場を岩国で今作っていただいております、大変にありがたく思っております。

ぜひ、順調に稼働していくように願っておりますし、必要な支援を行っていききたいと思っております。

この分野はまた、非常に技術をこれからもっともっと注いでいけるという分野だと思っておりますし、県内にも、この蓄電池の関係では、色々な素材ですとか技術ですとか、そうした部分を持っている企業も集積があるわけでありまして。

もっとさらに集積を進めて、ぜひこの分野でも山口県は大きく力を持っているということ、半導体と蓄電池を一つにくくって、我々も一つの柱にしているところで

ありますけれども、ぜひこの分野でも、優れた技術、また本当に素晴らしい素材が、国際的にも、非常に価値の高いものが作られているというものも県内にいくつもありますので、ぜひこれもさらに伸ばしていきたいと思います。

それから人材の点ですね。おっしゃった通り、これは全ての産業に共通する、とても重要なところであります。

我々この少子化の中でも、ぜひしっかりと県内に、県内にとどまっていこうとか、あるいは一旦出ていっても県内に戻ってきて頑張ろうと、そう思ってもらえるような地域を目指していかなければいけませんし、そうしたことにつながる人材育成をしていかなければいけないと思います。

色々な方法がありますが、例えば大学の話もありましたが、高校においても、より実業高校の魅力を高めていくとか、そうしたところで身につけられる技術を高めていく、そうしたことと、企業へのつなぎの部分をもっともっと密にして、県内のいかにその魅力的な職場がたくさんあるのかということ伝えていく、そうしたことも同時に進めていく必要があると思っています。

こうしたことも、さらに新しい計画の中で位置づけて、県の総合計画含めて、しっかり取り組んでいきたいと思いますので、また引き続き、ご意見、ご助言等いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは続きまして、松山委員さん、お願いします。

○松山委員（(株)ひびき精機）

やまぐち航空宇宙クラスター、ひびき精機の松山です。

本日は戦略に関するご説明と、そしていつも多大なご支援をいただいて、ありがとうございます。

ちょっと騒がしいかもしれないんですが、ご支援の中の、セミコン台湾に出展中でして、展示会場からお話しております。

私の方からは、今日、主にAIと産業クラスター、あと事業承継について、中小企業の立ち位置から少しお話させていただけたらと思います。

村岡知事が先ほどおっしゃったとおり、AIでの成長戦略はもう本当に変化に柔軟である、私たちみたいな中小企業からの取組がかなり重要かと思っています。

AI・AXに対してちょっと一点だけ、今日は話題にあまり上がってなかったので、お伝えしたいのが、フィジカルAIとヒューマノイドの活用になります。

今、海外の、特に中国のロボティクスになるんですけれども、技術がかなり急速に発展していきまして、人型のロボットで、あらゆる環境で働く、産業の活用事例が増えています。

私たちもいち早く今、ヒューマノイドを日本で導入しようと考えているんですけれども、こういった新しいプロダクトに対しての、情報共有や、政策の必要性

を、昨今は感じています。

なので、技術の発展スピードに合わせて、情報を共有するリアルタイム性の高い動きがかなり重要なかなと思って、その点に関して今強く思っているところです。

その次に、私、クラスターのリーダーとして動いていますので、航空・宇宙、半導体に関してなんですが、航空機は、世界生産機数、ボーイングをはじめとして、新型コロナウイルスが発生する前の生産機数よりも、今年度を軸に増えていきます。

なので、ひびき精機単独での話にはなるんですけども、航空機の引き合いはかなり増えてきています。

なので、今まで情報発信を続けてきた航空宇宙分野の企業さん、あと山口県以外の企業、かなり受発注が激しく行われているので、航空機の面、そして、ロケットの分野でもH3ロケットの成功から、名古屋エリアから種子島、鹿児島にかけての動線で、新しい分野を活用した製造ラインが生まれようとしています。

そこで山口県がこういった関わり合いをしていくかがかなり軸になるかと思っているので、宇宙の分野でも新しい産業の製造面での関わりをしようというものが今増えてきています。

JAXAのブースが、毎年、国のお金で、海外のIACという学会とかに呼ばれて、そこに、私たち出展していくことがあるんですけど、今年度、初めて山口県の航空宇宙クラスターがトルコで出展することになっています。

JAXAとともに、山口の今の宇宙のプロジェクトが受注している環境というのも、今ちょっとずつ出てくるような状況になってきています。

その次に半導体ですが、現在こうやって台湾の方で商談をしているんですね。かなりお金と物流の動きが増えてきています。今、日本に閉じこもって営業活動されている中小製造業が多いんですが、より一層、私たちを含め、海外に出ていく必要性があると思っています。

この上で、企業誘致という目的で、セミコン台湾では、色々なエリアの企業さんや自治体が来られていますけれども、輸出の方を強めて、政策も増やしていきながら、企業も力を注いでいくべきかと思っていますので、この今、日本で物価高や、お金を借りるにしても、かなり金利の上昇が見込まれる中で、挑戦していく経営者の重要性をさらに感じています。

最後に事業承継のポイントになるんですけども、今、クラスターの話でも、航空会社や半導体でも、私たちは今、受注量をかなり増やしていて、私たち以外の企業でも増えていっています。

その中で、チャンスを得られている企業、そうでない企業が今、真っ二つに分かれている状況になってきていて、地域のクラスターという考え方だけではなくて、産業単位で見ていく必要があるのと、あとは、国が17の成長の分野を作って

くれて、新規のチャンスが航空・宇宙、半導体だけじゃなくて、エネルギーとか色々なところで相関して生まれています。

例えばデータセンターが増えていくってなったら、半導体だけじゃなくてエネルギー関係の仕事も増えていくんですね。その仕事を手に入れる企業さんというのは、航空宇宙に関与している企業さんだったりします。

なので、産業を越境する、そして地域を越境する、そういったクラスター計画というのを、弊社としては、県ですけど、国の方にも発信していきますので、それをうまく経済産業省と山口県の方で組めたらいいなと思います。私からは以上です。

○村岡本部長（知事）

はい、どうもありがとうございました。セミコン台湾の会場から、お時間を割いていただいてありがとうございます。

お話いただいたのはとても重要なことばかりでありまして、御社は航空宇宙クラスターの関係で中心になってずっとやっておりまして、本当にありがとうございます。

またぜひこれからも、期待をしておりますけれども、おっしゃったAIの活用について言うと、生成AIの話が今日多かったですけど、フィジカルAIですね。ヒューマノイドの分野も本当にすごい飛躍があって、中国なんか本当に見ていてびっくりするような、毎年毎年進歩を遂げておりますので、これがいずれ我々の暮らしですとか、もちろん企業活動の中で活躍する場面っていうのもそう遠くなく来るんだろうなというふうに思っています。

そういった部分も含め、よく研究して、おっしゃったように、情報把握をして、共有して、ぜひそうしたものが山口県全体でいち早く生かしていける分野といけない分野があると思うんですけど、そういったものを情報共有することによって、自分はいったい可能性があるじゃないか、自分とこでこういうことができるんじゃないかということが、一歩早くできると、よりそれが成功につながっていくということになると思います。

おっしゃったように、この生成AIやヒューマノイド、フィジカルAIの関係というのは、進歩が非常に早い、よくウォッチしておかないと、あっという間に進んで先に行っちゃっている分野です。

よく考えて、どのような形で、県全体で情報共有しながら、うまく生かしていけるのかということを考えていきたいと思います。

それから、そうですね、半導体の分野ははじめですね、今、17の成長戦略、政府が言ってる、相互にそれぞれ関係してて、おっしゃったようにデータセンターを作れば、またエネルギーがあるということがあります。

その部分ですね、これからまた政府の方でも大きく力を入れていく中で、どのような動きになっていくのかというのは、我々もよくウォッチし、そして、山口県がその中でどのような可能性があるのかということ、よく考えて、また皆さんのお力をお借りしながらやっていきたいなと思っています。

そういった中で、半導体の分野というのは非常に重要でありますので、今はセミコン台湾に行っていていただきますけど、毎年セミコン台湾には、ひびき精機さんから行っていただいております、とても台湾企業の方が高い評価をいただいているところであります。

またそこで行われたPRによって山口県に関心を持って視察に来られる台湾の企業もいらっしゃいますので、ぜひこれからもさらに、この半導体の分野でもどんどん発信をしていただいて、御社もそうですけれども、地域全体の成長につながる取組をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

せっかく出展されている貴重な時間をこう割いていただきまして、ありがとうございます。ぜひこれからPR頑張ってくださいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、各委員の皆様方からご意見いただきました。これまでの各委員さんのご発言受けまして、追加で、もしご発言等ありましたら、挙手により、いただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

<閉会>

○村岡本部長（知事）

以上で、本日本日予定をしておりましたすべての議題が終了いたしました。

円滑な議事進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

今日の会合では、産業戦略、そしてGXの推進に向けて、それぞれの委員の皆様から大変示唆に富んだ、お話、色々な新しい情報もいただきまして、大変有意義なものであったというふうに受け止めております。

いただいたご意見等を踏まえまして、今年度の取組を推進してまいりますし、次期の戦略の作成に向けた検討も、今日の皆様方からのご意見も踏まえて、しっかりといい形に進めて検討を進めていきたいと思っていますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。